

# 輸送経済

THE YUSO-KEIZAI

第2835号 昭和24年4月23日 (第三種郵便物認可)

2/24

平成21年  
(2009)  
(火曜日)  
週刊



名糖運輸(本社・東京都武蔵野市、滝沢昭社長)は17日、同社最大規模となる「新関西物流センター」＝写真＝のしゅん工式を行った。総工費は約38億円。センターは西日本エリアの保管機能拡大や分散する拠点集約の役割を果たし、平成23年度には売上高41億円を目指す。(牧田 圭介)

敷地面積は約一万七千平方メートル。荷主の要望にあわせ別棟の倉庫建

設費用として毎月三千万円弱の高コスト運営が問題となっていた。

新センターの誕生で運営コストの削減を図るとともに、西日本エリアの業務を拡大するためのハブセンターとして機能

を高める。

所在地は大阪府高槻市。設も予定している。三島江一ノ七ノ八。約十キロメートル圏内には関西物流センター、大阪物流センターと二つの拠点が存在しているが、保管・仕分けなどのスペースが足りないことや、賃借費用として毎月三千万円弱の高コスト運営が問題となっていた。

## 高槻に大規模倉庫 名糖運輸 拠点集約と効率化狙う

冷蔵倉庫の部分は床面積約六千四百平方メートル。冷凍倉庫は同八百平方メートル。幅広く使える自動倉庫は、容積換算で約三十三万平方メートルの保管能力。

環境にも配慮した。約二百七十人のスタッフが受注や仕分けなどを担当するほか、自社車両も約八十台用意。営業の強化で新規顧客の獲得にも力を入れる。

現在の荷主数は約百五十社。味の素やカゴメなど大手食品会社が多数契約。取扱商品は主に乳製品や冷凍食品。外食産業向けに紙ナフキンや割りばしなどの保管も行い、顧客のニーズに応える。開設時の稼働率は七割。滝沢社長は三年を目安に倉庫稼働率を九割まで引き上げるとも、配達の効率化を行い収支の改善を図る。

食の安全や環境に配慮

新施設の平成二十一年度の売上高は三十五億円、経常利益は三億二千万円の赤字の見込み。二十三年度には売上高約四十一億円、経常利益一億